

1996年、将棋の羽生善治さんが25歳の若さで7つのタイトルを独り占めにし、「七冠王」誕生と、世間で大騒ぎとなりました。

羽生さんと小学校4年生のときに初めて対戦した森内俊之さんは、どういうわけか、羽生さんに分が悪く、タイトルにも恵まれませんでした。

しかし、2002年、初タイトル（名人位）を手にします。ところが翌年、羽生さんにこのタイトルを奪われてしまいます。しかも0勝4敗でした。

そして本年……森内さんは見事、羽生さんから名人位を奪回し、三冠王（名人・王将・竜王）に輝きました。世間は「大器晩成」と拍手喝采を送りました。

明日（あした）でも剃ってくれろと飛車が成り

江戸時代、床屋のお客さんたちは、待ち合いの時間を利用して、将棋に熱中したようです。

「お客さん、どうぞ」

と床屋の亭主に声をかけられたとき、飛車が相手陣地に飛びこみ、見事、「龍」に成りました。さあ、これからが勝負！ 当然、勢いづきます。もはや、床屋の台に乗る気はさらさらない。そこで、「明日でも剃ってくれろ」

と、脇目もふらずに言った。……

この気持、将棋ファンなら誰でも、よくわかります。